

シリーズ **日本ゼオンのNo.1** Vol.3

合成香料 「リーフアルコール」



グリーン系香料の世界トップブランドを確立。
皆様の暮らしのすぐそばで、「意外に」香っています。



ア ジア地域を中心とした「香り」に対する大きな需要の伸びに対応し、着実な発展を続けてきた、ゼオンの合成香料。特にグリーン系香料の中でポピュラーである「リーフアルコール」は世界トップシェアを誇ります。青葉アルコールとも呼ばれるこの香料は、香水、シャンプー、石鹸のみならずジュース、アイスクリームなどの食品香料としても幅広く活躍。皆様の暮らしの中にある「意外にゼオン」の代名詞のような存在です。

日本ゼオン株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-2 (新丸の内センタービル)
〒100-8246 電話 03 (3216) 1772



株主のみなさまへ
第88期 中間報告書

2012年4月1日 ▶▶▶ 2012年9月30日

日本ゼオン株式会社
証券コード：4205

中期経営計画の位置づけ

企業理念

大地の永遠と人類の繁栄に
貢献するゼオン

CSR基本方針

- コンプライアンスを徹底し、社会の安全・安心に応える。
- 企業活動を通じ、社会の持続的発展と地球環境に貢献する。
- 一人ひとりがCSRを自覚し、行動する。

重要な価値観 **スピード 対話 社会貢献**

大切にするゼオンらしさ **仲間との相互信頼**

2020年のありたい姿
「化学の力で未来を今日にするZEON-」
わたしたちゼオンは、お客様の夢と快適な社会の実現に
貢献し続けます。

2011～2013年度までの実行計画に展開

中期経営計画(3カ年計画)

基本方針

- エラストマー素材事業・高機能材料事業の両輪によるグローバルな事業拡大
- 2020年のありたい姿を実現する企業風土の育成

事業戦略

基本戦略

エラストマー素材事業と高機能材料事業のそれぞれの強みを磨き上げ、両輪でグローバルに事業を拡大する

事業セグメント別戦略

エラストマー素材事業

成長市場への
グローバルな対応による
強い事業の更なる強化

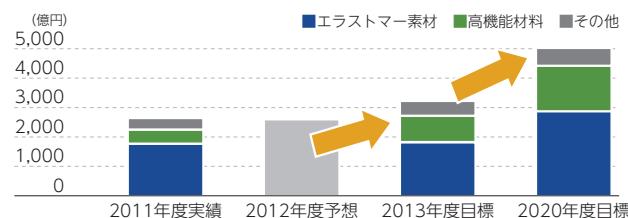
高機能材料事業

重点3事業分野[※]での
研究開発の
加速による事業拡大

コスト競争力強化

業績目標

2020年度 連結売上高 **5,000**億円を目指す



	2011年度実績	2012年度予想	2013年度	2020年度
連結売上高 (億円)	2,628	2,600	3,200	5,000
設備投資額 (億円)	2011～2020年度累計 3,200			

※ 重点3事業分野…情報用部材・エナジー用部材・メディカルデバイス

世界に誇り得る独創的技術で お客様の夢と快適な社会の実現に 貢献します。



株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに、第88期中間期(2012年4月1日から9月30日まで)
の報告書をお届けいたします。

当中間期を振り返りますと、国内経済が東日本大震災の復興需要等を背景に緩やかに持ち直す一方、欧州債務危機や円高基調の継続、新興国の景気減速等に起因する世界経済の先行き不透明感はおおえず、海外市況の悪化など、当社グループを取り巻く経営環境は大変厳しいものとなりました。

当社グループはこのような環境のもとで、引き続き「ZZ運動」による徹底したコスト削減に努めるとともに、エラストマー素材事業においては原料価格の変動に応じた販売価格の改定、高機能材料事業においては付加価値の高い新製品の開発と事業拡大に取り組んでまいりました。

この結果、当中間期の連結売上高は1,272億4百万円となり、前年同期に比べて5.1%の減収となりました。また、連結営業利益は114億42百万円(前年同期比46.2%減)、連結経常利益は103億21百万円(同47.8%減)、連結四半期純利益は55億50百万円(同54.6%減)となりました。

なお、中間配当金は、安定的、継続的な利益配当の方針に基づき、1株について6円とさせていただきます。

中期経営計画「SZ-20(エスゼット 20)」も2年目を迎えましたが、「『2020年のありたい姿』-化学の力で未来を今日にするZEON-」の実現のため、全社事業戦略として「エラストマー素材事業と高機能材料事業のそれぞれの強みを磨き上げ、両輪でグローバルに事業を拡大する」こと、ならびに「2020年のありたい姿を実現する企業風土を『見える化』をベースに育成する」ことの2点を基本方針として、初年度に引き続き諸課題に取り組んでおります。

次頁以降でもご紹介しておりますとおり、グローバルな市場拡大に応える国内外新プラントの建設や、ますます高度化するお客様のニーズに適合した高機能性樹脂新製品の上市など、成果も確実に上がり始めました。わたしたちは、「重要な価値観(スピード、対話、社会貢献)」を共有するゼオングループの仲間とともにこれらの成果を大きく育てることを通じて、お客様の夢と快適な社会の実現に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年12月
取締役社長 古河 直純

NEWS & TOPICS

4月

5月

- 5月9日
日本ゼオンとIBM、
高速シリアル伝送技術に関する
共同開発を発表

6月

- 6月13日～15日
【JPCA Show 2012】に出展
- 6月15日 タイ国のC5石油樹脂生産量倍増に向けた
新プラント起工式を挙 **TOPICS1**
- 6月28日 「ゼオングループCSR報告書2012」を発行

7月

8月

- 8月22日
新しい水素化製法によるZetpol®プラントの
竣工式を開催 **FOCUS! (次頁)**
- 8月31日
スマートフォン用カメラレンズ対応の高機能性樹脂
ZEONEX®新シリーズを上市 **TOPICS2**

9月

- 9月19日～21日
【N+(エヌプラス)
プラスチック複合展2012】に出展

TOPICS 1 タイ国のC5石油樹脂生産量倍増に向けた 新プラント起工式を挙

ゼオンケミカルズタイランド社の本社工場は、ゼオングループ海外初の石油樹脂製造プラントとして1998年に建設され、以来、アジア地域を中心に製品の提供を続けてまいりましたが、その主用途であるトラフィックペイント用樹脂を中心とした近年のアジア地域の旺盛な需要に応えるため、このほど同敷地内に第二プラントの建設を決定、6月15日、現地で起工式が挙行されました。

完成は2013年7月を予定、第一プラントと併せタイ国での生産能力は倍増の年間4万トンとなり、日本ゼオン水島工場を併せるとC5石油樹脂の世界での生産能力は同8万トンとなります。C5留分の事業展開で世界一を誇るゼオンの大黒柱の一つとして、ますます重要度を増していくことでしょう。



TOPICS 2 スマートフォン用カメラレンズ対応の 高機能性樹脂ZEONEX®新シリーズを上市

スマートフォン、タブレット型端末の爆発的な普及など、ここ数年で携帯端末市場は大きな変化を見せておりますが、これに伴うカメラモジュールの薄型化と、表示画面の大型化に耐える画質の向上に対応するため、レンズ材料の高性能化も強く要求されております。

この9月よりサンプル配布を開始したゼオンの高機能性樹脂「ZEONEX®(ゼオネックス)」の新製品「K-26R」は、従来品比で約2分の1の薄さのレンズに成形することが可能となり、光学特性も一段と向上。カメラモジュールの薄型化、高性能化に大きく貢献いたします。ゼオンでは引き続き、ZEONEX®の光学用途、アンテナ用途、医療用途等への新製品提案を積極的に行ってまいります。





● エラストマー素材事業部門

売上高 852億 96百万円 (前年同期比 4.7% 減)

- 合成ゴム ● 合成ラテックス ● 化成品

合成ゴムは、国内自動車生産が期間を通じて堅調に推移し、主要用途であるタイヤ向けにおける顧客の需要も旺盛であるなどプラス要因もありましたが、世界経済減速の影響や海外市況の低迷を受け全体的には販売が振るわず、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

合成ラテックスは、製紙用途向け、樹脂改質用途向け、手袋用途向けがいずれも低調に推移したことにより、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

化成品は、前年の販売調整の反動で輸出版売数量は伸びたものの、競合メーカーの生産調整が終了したことや、タイの石油樹脂子会社がタイ国内の需要低迷の影響を受けたこともあり、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

当事業部門全体の売上高は852億96百万円(前年同期比4.7%減)、営業利益は109億39百万円(同40.2%減)となりました。



【製品用途例】



FOCUS! Zetpol® 川崎工場新プラント



ゼオンの誇る特殊合成ゴム「Zetpol® (ゼットポール)」は、自動車用重要保安部品としてユーザーの高いご評価をいただき、関連産業に大きな貢献をしております。その自動車市場では低燃費、炭酸ガス低排出を目指した技術革新が進み、市場もグローバルに拡大しております。同時にゴム材料にも耐燃料特性、耐油性、そして長寿命であることが求められています。

新しいZetpol®はこれらの要請にこたえるため開発され、日本ゼオン川崎工場プラント建設を進めておりましたが、この8月22日に完工いたしました。同プラントでは、ガラスコード処理や繊維処理剤向けを中心に開発が進んでいるZetpol®ラテックスも同時に生産してまいります。



● 高機能材料事業部門

売上高 230億 19百万円 (前年同期比 11.3% 減)

- 高機能樹脂・部材 ● 情報材料 ● 化学品 ● 医療器材

高機能樹脂は、期間の後半にかけて光学レンズ用途等が堅調に推移したものの、期間前半の国内外の需要低迷の影響から、売上高は前年同期を下回りました。**高機能部材**も、モバイル向け光学フィルムが好調で販売数量を伸ばす一方で、テレビ向け光学フィルムの販売が振るわず、高機能樹脂・部材全体では売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

情報材料は、電池材料は好調に推移したものの、電子材料やトナー等の売上高が前年同期を下回ったため、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

化学品は、合成香料が競争激化の影響等から売上高を伸ばせず、特殊化学品の販売も需要低迷の影響を受け低調であったため、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

当事業部門全体の売上高は230億19百万円(前年同期比11.3%減)、営業損失は2億59百万円(前年同期の営業利益は23億56百万円)となりました。



【製品用途例】



● その他の事業部門

売上高 198億 2百万円 (前年同期比 0.8% 増)

- RIM配合液・成形品 ● バタジエン抽出技術等の販売 ほか

当事業部門全体の売上高は198億2百万円(前年同期比0.8%増)、営業利益は7億54百万円(同20.8%増)となりました。



※ 2009年度の各部門別売上高については、セグメント変更前の区分により記載しております。

連結財務ハイライト

当中間期の業績のポイント

売上高 1,272億 4百万円 ▶ 欧州・新興国の景気減速に起因する海外市況の悪化の影響を受け、売上高減少
(前年同期比 5.1%減)

経常利益 103億 21百万円 ▶ 販売価格の改定や「ZΣ運動」による徹底したコスト削減等に努めるも、経常利益減少
(前年同期比 47.8%減)

四半期純利益 55億 50百万円 ▶ 特別損益の悪化も影響し、四半期純利益減少
(前年同期比 54.6%減)



連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 2012年9月30日	前連結会計年度末 2012年3月31日
資産の部		
流動資産	173,386	169,244
固定資産	140,999	142,680
有形固定資産	99,697	97,774
無形固定資産	3,770	4,017
投資その他の資産	37,532	40,890
資産合計	314,385	311,925

科目	当第2四半期 連結会計期間末 2012年9月30日	前連結会計年度末 2012年3月31日
負債の部		
流動負債	132,405	120,312
固定負債	43,514	56,133
負債合計	175,919	176,444
純資産の部		
株主資本	142,500	138,340
その他の包括利益累計額	△7,256	△5,889
新株予約権	246	228
少数株主持分	2,976	2,801
純資産合計	138,466	135,480
負債純資産合計	314,385	311,925

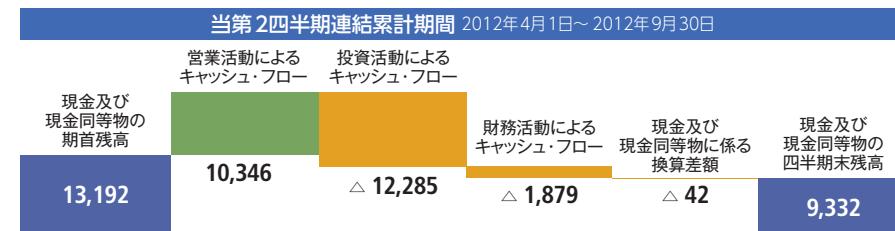
連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 2012年4月1日～2012年9月30日	前第2四半期連結累計期間 2011年4月1日～2011年9月30日
売上高	127,204	134,071
営業利益	11,442	21,283
経常利益	10,321	19,792
税金等調整前四半期純利益	8,753	19,656
四半期純利益	5,550	12,235

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)



資産・負債・純資産について

●資産の部

現金及び預金、受取手形及び売掛金、投資有価証券などが減少したものの、未収入金、たな卸資産、有形固定資産などの増加により、資産合計は前年度末に比べて増加しました。

●負債の部

支払手形及び買掛金などが増加したものの、未払法人税等などの減少により、負債合計は前年度末に比べて減少しました。

●純資産の部

利益剰余金の増加などにより、純資産合計は前年度末に比べて増加しました。

キャッシュ・フローについて

●営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益による資金の増加などにより、営業活動で得られた資金は103億46百万円となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

主として有形固定資産の取得に資金を振り向けた結果、投資活動で使用した資金は122億85百万円となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払など、財務活動で使用した資金は18億79百万円となりました。

会社の概況 (2012年9月30日現在)

商号 日本ゼオン株式会社 (ZEON CORPORATION)
 設立 1950年4月12日
 資本金 242億1千1百万円
 本社 〒100-8246 東京都千代田区丸の内1-6-2
 新丸の内センタービル
 電話03(3216)1772

従業員数 2,909名(連結)

役員
 取締役社長 古河 直純
 取締役 田中 公章(★)
 取締役 伏見 好正(★)
 取締役 大島 正義(★)
 取締役 南 忠幸(☆)
 取締役 荒川 公平(☆)
 取締役 武上 博(☆)
 取締役 伊藤 晴夫
 取締役 長谷川 純(*)
 取締役 平川 宏之(*)
 取締役 伊藤 敬(*)
 常勤監査役 岡田 誠一
 常勤監査役 岩田 峰郎
 監査役 藤田 讓
 監査役 南雲 忠信
 監査役 森 信博
 常務執行役員 井上 幹雄
 常務執行役員 朝比奈 宏
 常務執行役員 三平 能之
 執行役員 桜井 賢典
 執行役員 梅澤 佳男
 執行役員 今井 廣史
 執行役員 西嶋 徹
 執行役員 山本 俊一
 執行役員 黒田 雄三
 執行役員 藤澤 浩

(★)の取締役は専務執行役員を兼務しております。
 (☆)の取締役は常務執行役員を兼務しております。
 (*)の取締役は執行役員を兼務しております。

国内拠点・海外拠点 (2012年9月30日現在)



株式の状況 (2012年9月30日現在)

株式の状況

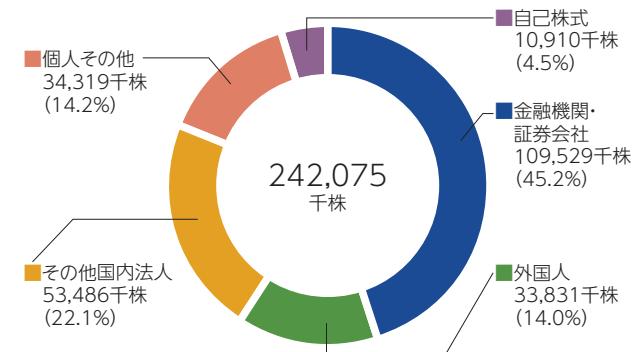
発行可能株式総数 800,000,000株
 発行済株式の総数 242,075,556株
 株主数 12,298名(前期末比77名増)

大株主

株主名	当社への出資状況 持株数(千株)	議決権比率(%)
横浜ゴム株式会社	19,482	8.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,131	6.55
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,900	4.72
朝日生命保険相互会社	10,679	4.62
株式会社みずほコーポレート銀行	8,770	3.80
全国共済農業協同組合連合会	7,450	3.23
旭化成ケミカルズ株式会社	6,438	2.79
古河電気工業株式会社	5,594	2.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	5,591	2.42
株式会社みずほ銀行	4,989	2.16

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 当社は自己株式10,910千株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

配当金受領 3月31日および
 株主確定日 中間配当を行うときは9月30日

基準日 毎年3月31日(その他臨時に必要なときは、あらかじめ公告します。)

公告方法 電子公告 <http://www.zeon.co.jp/>
 (ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。)

株主名簿 みずほ信託銀行株式会社
 管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

2012年6月29日より、株主名簿管理人をみずほ信託銀行株式会社に変更いたしました。つきましては、連絡先が以下のとおり変更となります。

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 (〒168-8507)
 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 (〒168-0063)
 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社にお申出ください。